

第3回県立高等学校改革懇談会 『相馬東・新地』

日時 令和2年8月28日(金)15:00 ~ 16:00
場所 相馬東高等学校 大会議室

福島県教育委員会

本日の進め方

1	統合校の方向性について
2	これまでに頂いた御意見について
3	統合校の教育内容について

1 統合校の方向性について

急激な少子化

- 全県的な中学校卒業見込者数の減少
 - ・ 2017年～2028年間で約5,300人(28.9%)の減少
- 相馬地域の少子化
 - ・ 2017年～2028年間で約300人(32.92%)の減少
- 両校の募集定員充足の状況（直近3年間）

	2018(H30)年	2019(R1)年	2020(R2)年
相馬東 (募集定員160人)	161	160	149
新地 (募集定員80人)	72	46	36

高校改革が喫緊の課題に

相馬東高校

定員160名
○ 総合学科(4学級)

新地高校

定員80名
○ 普通科(2学級)

2022年4月開校予定
相馬東・新地統合高校 (仮称)

定員：総合学科 200名(5学級)
場所：相馬東高校校舎

統合時（令和4年4月）のイメージ

現在	令和4年度	カリキュラム
現中学2年生→	統合校1年生	統合校の新しいカリキュラム
現中学3年生→	統合校2年生	入学時のカリキュラムのまま (カリキュラムに変更なし)
現高校1年生→	統合校3年生	



統合校生として卒業

検討する統合校の特色化

丁寧な学習指導

情報ビジネス・生活化・
芸術文化・スポーツ・
文理の5系列

主体的・対話的で
深い学びの実現

地域と密着した探究的・
実践的な学びの導入
(地域を学習フィールド
とした探究活動)

環境・防災系列（仮称）
の新設

2 これまでに頂いた御意見について

1 統合について

- 新地高校が地域で果たしてきた役割は重要であるため、統合を見直して欲しい。
- 1学年4～6学級の根拠を示して欲しい。
- 1学級での存続はできないか？

2 生徒支援のあり方について

- 新地高校では不登校の生徒を受け入れ、立派な社会人として送り出している。教育の根本は手厚い指導である。
- 新地高校の丁寧な指導を統合校で行えるのか。

3 地域との関わりについて

- 新地高校がなくなることで地域が衰退する。

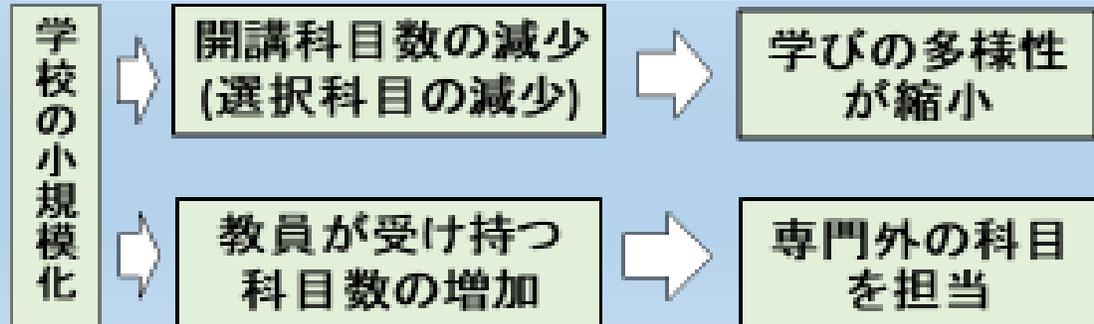
4 統合後の環境の変化について

- 統合前に新地高校に入学した生徒が、統合後に相馬市に通うことにより、今までと異なる環境になじめない生徒が出るのではないか。
- 統合後、環境が大きく変わることによって新しい高校での生活に不安を感じている声がある。

生徒の学びへの影響について

受講できる科目の制限

学級数 (例)	開講科目数 (例)	教員が担当する科目数
6	50	1.2
5	47	1.3
4	45	1.6
3	43	2.0
2	41	2.7
1	34	4.3



学校での教科・科目(例)

教科

英語
数学
理科
地理歴史
公民
国語
保健体育
家庭
情報
芸術
L H R

科目

英語 英語表現 英語会話
 数学(Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ) 数学(A,B)
 物理 化学 生物 地学
 世界史(A,B) 日本史(A,B) 地理(A,B)
 現代社会 倫理 政治・経済
 国語総合 現代文(A,B) 古典(A,B)
 体育 保健
 音楽 美術 書道
 ロングホームルーム

学校規模別の比較

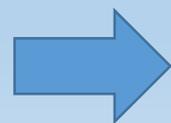
生徒への支援体制	6学級	5学級	4学級	3学級	2学級	1学級
部活動指導	運動部 1 3	運動部 1 1	運動部 1 1	運動部 8	運動部 8	運動部 2
	文化部 9	文化部 9	文化部 9	文化部 3	文化部 3	文化部 2
進路指導（専門の教員数）	5	5	4	2	1	0
生徒指導（専門の教員数）	4	3	3	2	1	0
学校司書	1	1	1	0	0	0

2-1 統合について

令和2年度尚英中学校卒業者の高校進学先

	進学者数	新地	相馬東	相馬	原町	相馬農業	小高産業技術
人数 (人)	75	14	26	14	3	1	17
進学者に対する割合 (%)	100	18.7	34.7	18.7	4.0	1.3	22.7

公共交通機関の
状況



JR利用で新地駅から
相馬駅まで約9分、原ノ町駅まで約26分

2-1統合について

- ・ 少子化のさらなる進行
- ・ 生徒の学習ニーズの多様化・少子化
- ・ グローバル化の進展や技術革新に伴う社会の変化



- ・ 統合し一定の学校規模を確保し、生徒たちの教育環境を整える



- ・ たくましく生きる力の育成
- ・ 地域探究活動などを通して、学びを深める

地域の発展につながる

2-2 生徒支援のあり方について

統合校における生徒1人1人に寄り添った指導体制の充実(案)

充実した進路指導

- ・進路アドバイザー
- ・地元企業との連携
- ・外部講師の積極的な活用
- ・上級学校との連携
- ・行政機関との連携
- ・個別対応の重視

丁寧な学習指導

- ・基礎学力定着のための総合演習
- ・チームティーチングによる丁寧な授業
- ・分割授業による少人数授業
- ・学習支援員などのサポートによるきめ細やかな学習指導

生徒

ICT機器を活用した授業・理解確認

- 教員の一方向的な授業から脱却し、主体的・対話的で深い学びを実現するためにICT機器を活用する
- ・E-ラーニング
 - ・探究的な授業での活用
 - ・個別最適化した課題の提供

チーム学校の協力体制

- ・教育相談チーム
- ・特別支援教育推進委員会
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用
- ・行政機関や医療機関との連携

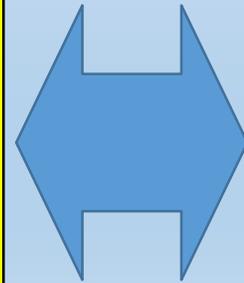
地域連携の学び

なぜ必要？

- 学校内だけでは学びは完結しない
- 自ら課題を発見し、問いを立てるためには、現場で感じる必要がある



学びのフィールドを地域に！
(社会は多様であり、今の
学びは未来へつながっている
ことを実感できる。)
役場、商工会、各種学校、企業等



目の前で起こっている様々な課題に対して、
当事者意識を持つ

地域医療の人材不足を解決するには

災害時の対応方法

地域人材

町の賑わいを
活性化するには

震災の記憶を継承
するために

2-3 地域との関わりについて

統合校における地域と連携した人材育成

【個人のキャリア形成】

【地域との関わり】

3年

課題研究

社会課題解決のためのテーマを設定し、探究・実践を行う。研究のまとめとして、論文作成・研究成果発表を行う。

相馬市、新地町を学習フィールドとした地域との協働による学び
(役場、商工会、各種学校、企業等)

2年

総合的な探究の時間

地域の人と、地域の中で、地域の歴史を学ぶことで、その中から自ら課題を発見し、問いを立てていく。

- 全員が3日間インターンシップを行う。
対象企業
相馬市、新地町、南相馬市の企業等
- 地域の方から、地域の歴史を学ぶ

1年

産業社会と人間

将来就きたい職業や生き方について深く考え自分自身のライフプランを作成し、発表する。

全員が各企業等に出向き、職業インタビューを行い、地域の産業について学ぶとともに、地域の状況を知る。
対象：相馬市内、新地町内の企業

地域連携の例

- 石川町と県立石川高校が連携協力する包括協定を締結(R2年5月)
- 棚倉町と修明高校が連携協力する包括協定を締結(R2年5月)
(町づくり活動、社会貢献を目指す人材育成、地域資源を活用した産業・観光の振興等)

地域人材へ

地域全体を教育の場に

こんな生徒を育成します。

- ・地域に愛着を持つ(地域の良さを知り、地域の課題も知る)生徒。
- ・地域に貢献する(課題を解決しようとする)生徒。

そのために、統合校では
自律する力
共生する力
創造する力 を育てます。

統合校における地域と連携した人材育成(案)

相馬双葉漁協
による調理教室



フードデ
ザイン



老人ホームでの
実習

生活と福
祉

子どもの
発達と保
育

保育所での
実習



ボランティ
ア活動

防災と復
興



国道6号桜植樹
ボランティア

被災地見学



懇談会等でいただいた御意見

- 統合前に新地高校に入学した生徒が、統合後に相馬市に通うことにより、今までと異なる環境になじめない生徒が出るのではないか
- 統合後、環境が大きく変わることによって新しい高校での生活に不安を感じている声がある。

対応方法

「校舎方式」

統合により1つの高校ではあるが、それぞれの高校の校舎をそのまま使用し、生徒が入学した高校の校舎で卒業まで学ぶ方式。生徒は統合後も、今まで通学した校舎で学ぶことができる。

2-4 統合後の環境 の変化について

「校舎方式」のイメージ

統合前年度
令和3年度

新 地 高 校

1	2	3
---	---	---

相 馬 東 高 校

1	2	3
---	---	---

統合校

統合1年目
令和4年度

新 地 校 舎

	2	3
--	---	---

本 校 舎

統合1	2	3
-----	---	---

統合2年目
令和5年度

		3
--	--	---

統合1	統合2	3
-----	-----	---

メリット

生徒は、卒業まで新地校舎において**安心して**今まで通りの環境で活動することができる。

統合2年目まで、2つの校舎を使用。入学したそれぞれの校舎で卒業まで学ぶことができる。

3 統合校の教育内容について

相馬東・新地統合高等学校(仮称)

令和4年4月開校

教育方針(案) 地域にとって有為な人材の育成

教育目標(案)

- 自ら学び、考え、判断し、取り組む人間の育成
- 思いやりの心を持ち、社会形成に参画する人間の育成
- 心身ともに健康で、新しい社会を共創する活力に満ちた人間の育成

創造

自律

共生

誠実

総合学科の学び

1学年 200人

文理教養(仮称)

生活福祉(仮称)

産業ビジネス(仮称)

スポーツ芸術(仮称)

大学進学から就職まで
生徒の多様な進路希望
に沿った学習コース

- ・ 基礎学力の確実な定着
- ・ キャリア指導の充実

特色①

総合学科としての多様な進路に対応した学び

4つの系列(仮称)の科目を準備

文理教養系列

国公立や私立の4年生大学、各種専門学校進学者に向けた科目群。

- ・論理国語
- ・地理総合
- ・数学Ⅱ
- ・数学Ⅲ
- ・物理基礎
- ・化学基礎
- ・英語コミュニケーションⅡ
など

芸術・スポーツ系列

体育系及び芸術系の学問を専門的に学び、体育系や芸術系への上級学校進学者等に向けた科目群。

- ・音楽系（合奏重奏、音楽史、声楽、器楽）
- ・美術系（素描、絵画基礎、応用美術）
- ・書道系（実用書道、篆刻・刻字）
- ・スポーツ系（ニュースポーツ、専攻実技）
など

生活福祉系列

保育、服飾、介護福祉系などへの就職を目指す科目群。
さらに、家庭・福祉系の上級学校への進学にも対応。

- ・保育基礎
- ・ファッション造形
- ・フードデザイン
- ・生活と福祉
- ・介護福祉
- ・社会福祉
など

産業ビジネス系列

マーケティング、会計、製造業、情報処理系などへの就職を目指す科目群。
さらに、商業、工業、情報系の上級学校への進学にも対応。

- ・商業系（マーケティング、ビジネス基礎、商品開発）
- ・工業系（工業環境技術、社会基盤工学、デザイン実践）
- ・Webデザイン、プログラミング
など

外部講師による 防災講座

- 自治体職員などによる震災当時と震災復興の現状について
- 災害時におけるボランティア活動について
- 放射線教育（被ばく医療について）
- 阪神淡路大震災の経験について

学校設定科目 「防災・復興」 の設置

防災や環境までの分野を科学的な視点で捉える授業

統合校でしか学べない学校独自の科目

今後の再編整備スケジュールについて

統合校開校に向けたスケジュール

令和元年度 (2019)					令和2年度(2020)										令和3年度(2021)										令和4年度 (2022)				
11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
教育方針・教育目標 →					教育課程・校名の検討 →										中学生への説明 ←→														
魅力化・特色化の検討 →					<div style="background-color: yellow; text-align: center; padding: 10px;"> 中学2年生への 説明会 </div>										<div style="background-color: yellow; text-align: center; padding: 10px;"> 統合校体験入学 </div>										<div style="background-color: yellow; text-align: center; padding: 10px;"> 統合校入学者選抜 </div>	<div style="background-color: #e6f2e6; text-align: center; padding: 10px;"> 統合校 開校式 入学式 </div>			
					令和2年度入学生：統合時3年生										令和3年度入学生：統合時2年生														